

# WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート (2026年4月)

## ■ 4月のパフォーマンス

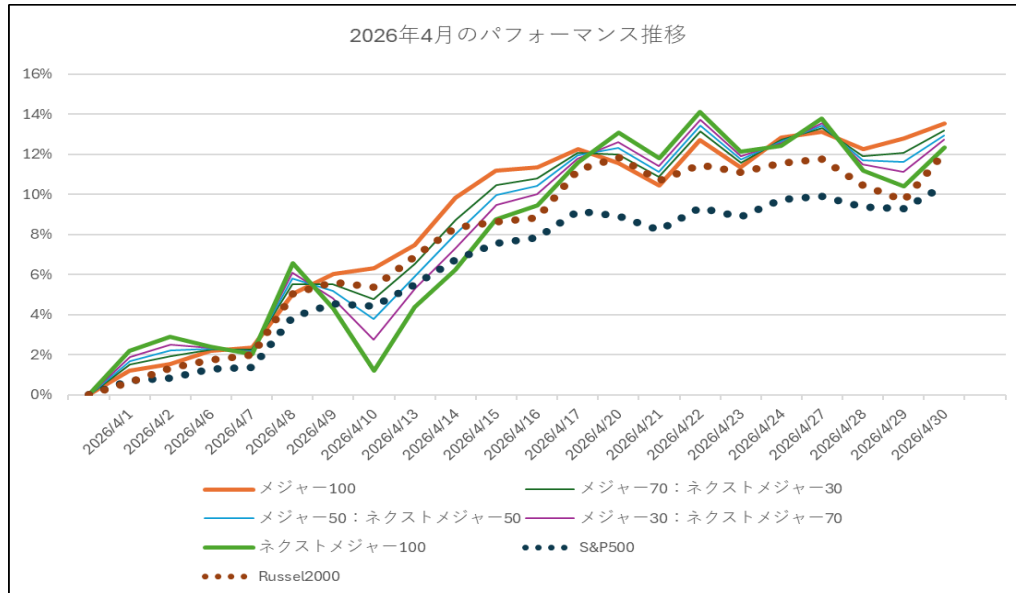
### ➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+13.54%
ネクストメジャー100	+12.35%

### ➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+10.42%
Russel2000	+12.16%
NY ダウ	+7.14%
NASDAQ	+15.29%

### ➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	13.54%	S&P500	10.42%	3.11%
2位	メジャー70:ネクストメジャー30	13.18%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	10.94%	2.24%
3位	メジャー50:ネクストメジャー50	12.95%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	11.29%	1.65%
4位	メジャー30:ネクストメジャー70	12.71%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	11.64%	1.07%
5位	ネクストメジャー100	12.35%	Russel2000	12.16%	0.19%
	全戦略平均	12.95%			1.65%

※各指標のベンチマークについて

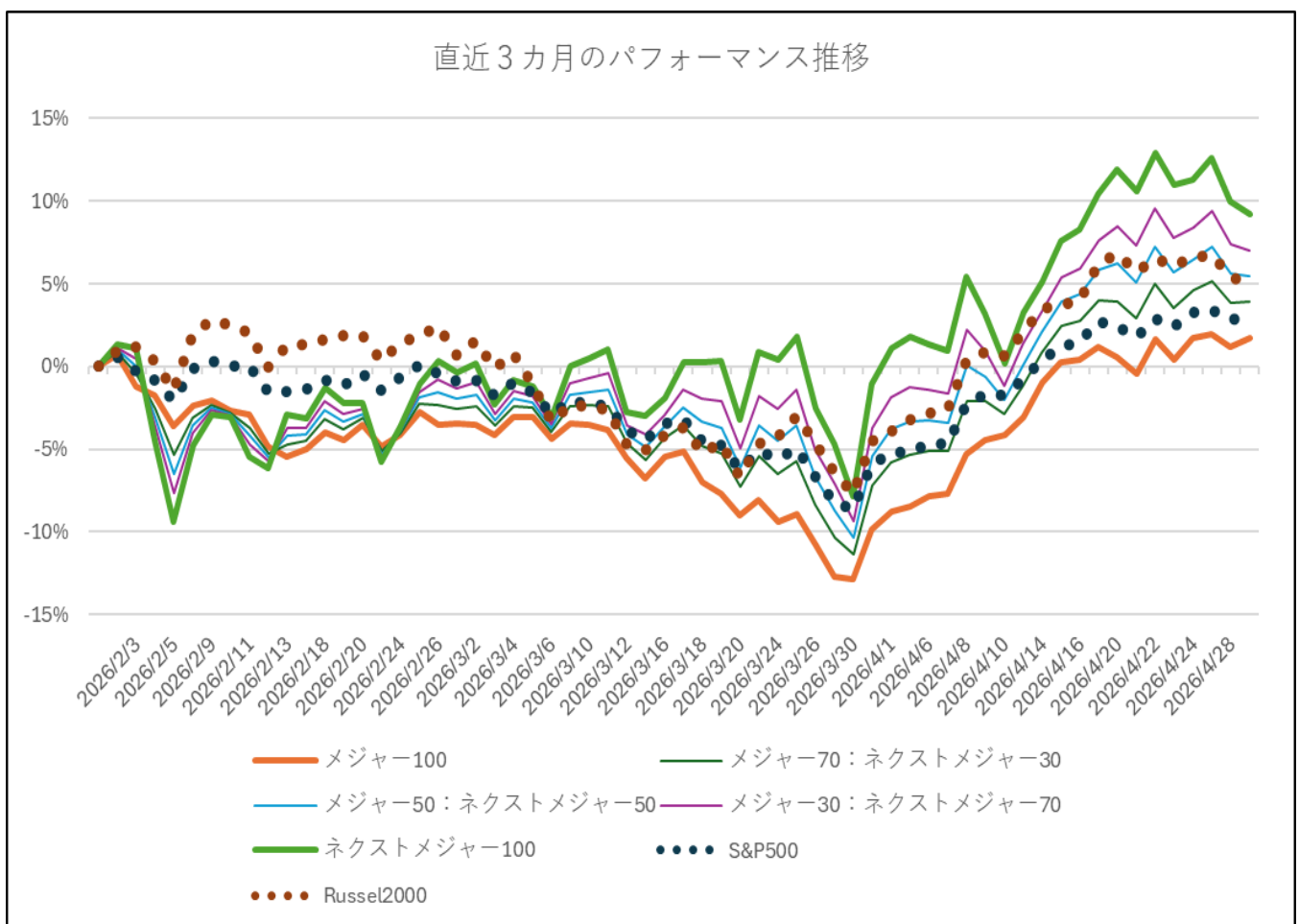
メジャー100のベンチマークはS&P500、ネクストメジャー100のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

**WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+13.54%、対ベンチマーク超過収益では+3.11%となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。**

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ





## ■ 4月の市況概況

### ➤ 米国市場

4月の米国市場は、イラン情勢を巡る地政学リスクと原油価格の高騰に伴うインフレ再燃懸念、そしてそれに連動したFRB（連邦準備制度理事会）の利下げ観測の後退が主要なテーマとなりました。月前半は中東情勢のヘッドラインに振られる神経質な展開が続きましたが、後半にかけては底堅い経済指標や一部ハイテク企業の好決算が下支えとなり、主要株価指数は最高値を更新する力強い推移を見せました。

#### ・第1週（4月1日～4月3日）／ダウ平均：+0.35% S&P 500：+0.83%、NASDAQ：+1.34%

##### 中東情勢の緊迫化と底堅い雇用統計

トランプ米大統領のイランへの軍事作戦に関する発言に一喜一憂し、ダウ平均は一時660ドル安となるなど乱高下しました。一方で、発表された3月の非農業部門雇用者数は17.8万人増と市場予想を大幅に上回り、米労働市場の底堅さが確認されました。

#### ・第2週（4月6日～4月10日）／ダウ平均：+3.04%、S&P500：+3.56%、NASDAQ：+4.68%

##### 米・イランの停戦合意と原油急落による株高

米国とイランの2週間にわたる一時停戦合意が発表されたことで地政学リスクが後退し、ダウ平均は一時1300ドル超上昇する全面高となりました。原油先物価格も16%急落しインフレ懸念が和らぎました。3月のCPI（消費者物価指数）は前年比3.3%へと伸びが加速しましたが、リスクオン姿勢が相場を力強く牽引しました。

#### ・第3週（4月13日～4月17日）／ダウ平均：+3.19%、S&P 500：+4.54%、NASDAQ：+6.84%

##### 堅調な金融決算とナスダックの最高値更新

イランとの停戦協議が暗礁に乗り上げる場面もありましたが、JPモルガン・チェースなど金融大手のトレーディング収入増を伴う好決算が市場を支え、ナスダックとS&P500は最高値を更新しました。さらに、イランによるホルムズ海峡の解放表明で安心感が広がり、ナスダックは13営業日連続の上昇を記録しました。

#### ・第4週（4月20日～4月24日）／ダウ平均：△0.44%、S&P500：+0.55%、NASDAQ：+1.50%

##### 停戦期限の延長とソフトウェア決算の重荷

米・イランの停戦期限が延長されたことで市場に安心感が広がり、ナスダックは再び最高値を更新しました。しかし、IBMなどのソフトウェア関連企業が保守的な業績見通しを示したことが嫌気され、株価が反落する場面もありました。4月のPMI速報値は製造業・サービス業ともに市場予想を上回り、米経済の強さを示しました。

#### ・第5週（4月27日～4月30日）／ダウ平均：+0.86%、S&P500：+0.61%、NASDAQ：+0.22%

##### FOMCでの金利据え置きと巨大IT決算の二極化

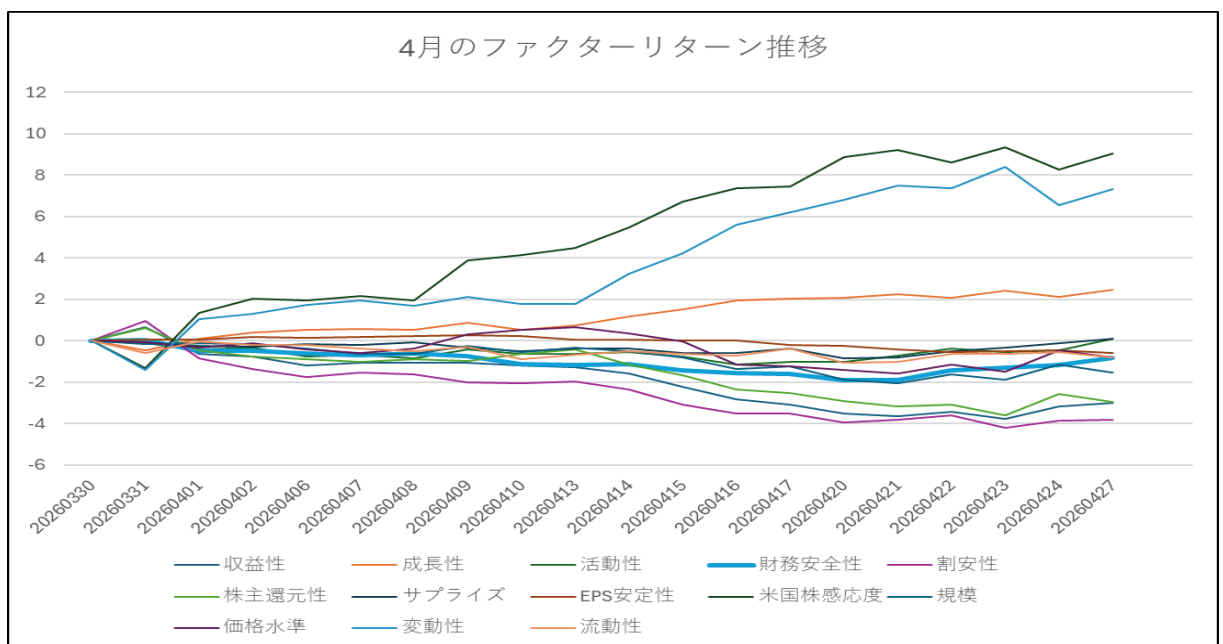
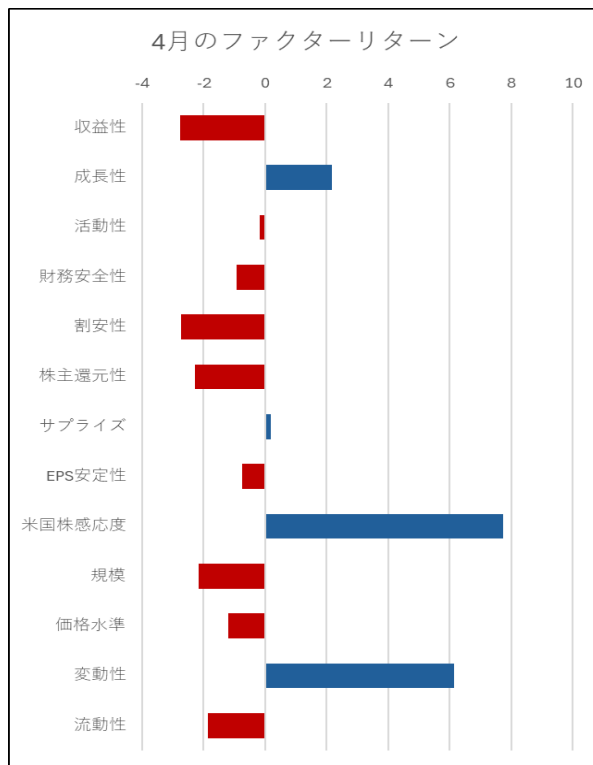
FRBはFOMC（連邦公開市場委員会）において、インフレリスクへの警戒から政策金利の据え置きを決定しました。アルファベットなどがAI需要を背景に好決算を示し急伸する一方、メタはAI向け設備投資の大幅増が嫌気されて急落し、巨大IT企業の評価は二極化しました。また、1-3月期の実質GDP速報値は年率2.0%増と減速しつつも、PCE価格指数は3.5%上昇しインフレの粘着性が確認されました。

## ■ 月間パフォーマンスの背景

### ➤ ファクター動向

4月は、ハイリスクのグロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、米国株感応度ファクター・変動性ファクター・成長性ファクターが大きくプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクターがマイナスとなり、米国とイランの停戦合意により戦争終結が近いとの楽観的見方に加え、好決算となった一部の AI・半導体関連銘柄に買いが集中するなか、ハイリスクのグロース株へ資金が向かったことが見て取れます。

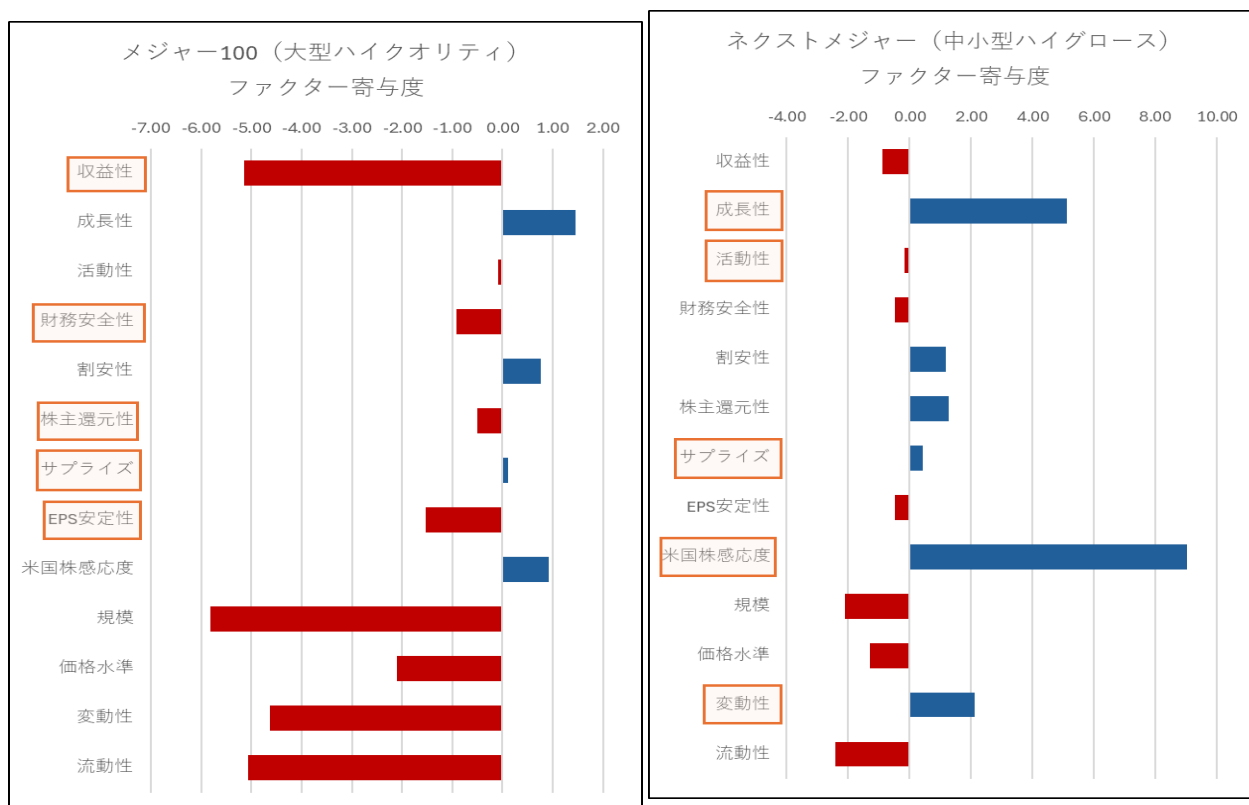


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

**メジャー100 (大型ハイクオリティ)** がS & P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績 (=ポジティブ・サプライズ)、高成長」といったポートフォリオ特性がプラスに寄与、さらに、高米国株感応度 (=ハイベータ) 特性もプラスに寄与したためです。

**ネクストメジャー100 (中小型ハイグロース)** がRussel2000をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高成長、好業績 (=ポジティブ・サプライズ)」特性がプラスに寄与、さらに、「高米国株感応度 (=ハイベータ)、高変動性 (=ハイリスク)」といったポートフォリオ特性も大きくプラスに寄与したためです。



4月は、中東の地政学リスクが高まり始めた3月とは真逆となる「リスクオンの市況環境」となったことで、ハイリスクのグローバル株に資金が集中、ハイテク株の比率が高いS & P500やNASDAQ指数は最高値を更新しました。

中東情勢の着地点は未だ見えていない状況であり、引き続きボラティリティの高い市況環境が続く可能性はありますが、AI関連銘柄等の高い成長性を持つグロース企業への期待は継続するのではないのでしょうか。

➤ 個別銘柄寄与度

**メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄**

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	GOOGL	アルファベット	10.4%	+3.22%
	Google検索、YouTube、Google Cloudを柱とするテック大手。2026年4月、AIインフラへの投資（Capex）を大幅に引き上げると発表。独自のAIモデル「Gemini」の検索広告への統合が完了し、広告単価の改善が鮮明になっています。また、クラウド部門の営業利益率が過去最高を更新し続けています。			
2	AMZN	アマゾン・ドット・コム	10.0%	+2.58%
	EC、AWS（クラウド）、広告事業。2026年4月 29日に発表された決算では、売上高が前年比17%増の1,815億ドルと予想を突破。特にAWSが前年比28%増と再加速しており、AI半導体メーカーのAnthropicへの投資による評価益も利益を押し上げました。2026年の設備投資額は2,000億ドルに達する見込みです。			
3	MU	マイクロン・テクノロジー	4.4%	+2.01%
	DRAMおよびNANDフラッシュメモリ製造。2026年に入り株価は70%以上急騰。AIサーバーに不可欠な高帯域幅メモリ（HBM）の需要が供給を大幅に上回っており、2026年・2027年分まで予約で埋まっている状況です。3月発表の決算ではEPSが市場予想を30%以上上回る記録的な数字を叩き出しました。			
4	NVDA	エヌビディア	10.8%	+1.55%
	AI向けGPUおよびデータセンター・インフラ。新世代チップ「Blackwell」の本格出荷が加速中。2026年度の利益成長率は約69%に達すると予測されています。4月時点では、5月28日に予定されている決算発表への期待から買いが先行。AI計算リソースのデファクトスタンダードとしての地位を築いています。			
5	AVGO	ブロードコム	4.7%	+1.51%
	半導体およびインフラソフトウェア。AIアクセラレータ（カスタムチップ）およびネットワーク機器が爆発的に成長。2026年度の収益成長率は60%を超えると予測されており、VMware買収後の統合シナジーも利益率向上に寄与しています。			

## ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	FIX	コンフォート・システムズ USA	10.3%	+3.14%
	<p>商業・産業用建物向けの空調（HVAC）、電気設備サービス。AIデータセンター建設ラッシュに伴う高度な冷却システム demand を独占。2026年4月時点で受注残高が過去最高を更新し続けており、労働力不足を背景とした価格決定力の強さが際立っています</p>			
2	DAVE	デイブ	6.2%	+2.91%
	<p>AI主導のフィンテック銀行（ネオバンク）。独自のAI審査「CashAI」により、貸倒リスクを抑えながら若年層への少額融資を拡大。2026年4月時点で株価は1年で116%以上上昇しており、収益性が急改善している数少ないフィンテック成功例として注目されています。</p>			
3	ECG	エベラス・コンストラクション	6.3%	+1.47%
	<p>2024年末にMDU Resourcesからスピノフした送電・電気・特殊工事会社。2026年5月5日に発表された第1四半期決算では、売上高が前年比 25%増の10.4億ドルに達し、市場予想を大きく上回りました。データセンターや電力網近代化という「電力インフラ」特需の最前線にいます。</p>			
4	ROKU	ロク	5.8%	+1.29%
	<p>TVストリーミングプラットフォーム。2026年4月に全世界のストリーミング世帯数が1億を突破。5月1日のQ1決算発表では、売上高12.5億ドルを記録し、待望の純利益黒字化（8,600万ドル）を達成しました。広告収入の回復と、OS市場での圧倒的シェアが強みです。</p>			
5	CVNA	カーバナ	4.7%	+1.16%
	<p>中古車のオンライン販売プラットフォーム。 2026年4月発表のQ1決算では、販売台数が前年比40%増と過去最高を記録。EPSは1.69ドル（予想1.56ドル）と大幅に上振れました。物流網の最適化により、中古車市場の低迷期を脱して「高収益企業」へと変貌しています。</p>			

## ■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

### 1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

### 2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

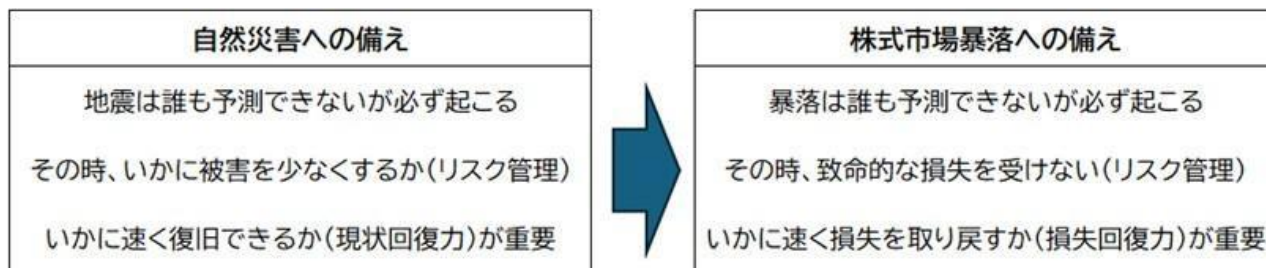
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

### 3. 戦略のコンセプト

**・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、**

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



**・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、**

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

**・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化**

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。

計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

#### ① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

#### ② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

### 4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

### 5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年5月11日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

## 免責事項

### ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

#### <業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

#### 【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

#### 【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

### 重要事項

#### <手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

#### <投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

#### 【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

#### 【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

#### 【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

#### 【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

#### 【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

#### 【投資一任契約の媒介業者】

##### **Jトラストグローバル証券株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号  
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

#### 【口座管理機関】

##### **株式会社スマートプラス**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号  
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会